

2018年度は、管理栄養士4名であったが、10月より産前産後・育児休業による人の入れ替わりがあり、管理栄養士3名、事務職員1名、委託スタッフ12名とあわせて16名であった。回復期リハビリ病棟や通所利用者への栄養管理面の介入や給食管理業務の委託選定などに取り組んだ1年であった。

1. 給食管理業務

献立内容の検討を継続して行い、患者に満足してもらえる食事提供に努めた。2016年度9月に献立を4週サイクルから5週サイクルへ変更し、定着させる事ができた。各食種の栄養量の調整や日曜の朝パン提供内容の変更などを行った。また、委託スタッフと共に、業務全体の見直しを行い、業務効率に関して取り組み、現在の食事内容を何とか維持することができた。次年度から、献立作成業務が委託側へ移行し、セレクト食を再開する予定となっている。再度、体制を整備し、患者満足度を維持していく。

2. 臨床業務

定期的なベッドサイド訪問の実施、食欲低下など問題のある患者への早期介入に継続して取り組んだ。多職種と連携し、食事形態や食事量の調整を行い、患者に少しでも食事を食べてもらえるよう努めた。介入内容については、提供・摂取栄養量などもあわせてカルテに記録し、情報共有を徹底して行った。また、診療報酬改定による、リハビリテーション総合実施計画書への参画、多職種カンファレンスへの介入などを積極的に行った。今後、更に多職種との連携強化に取り組んでいく。

3. その他

働きやすい環境整備を目標に、有給休暇の計画的取得と勤務開始時間の見直しや業務効率をあげるため、少しずつ業務手順等を見直した。残業時間の短縮をする事で、女性ばかりの部署であり、子育てしながら仕事ができる環境、お互いがカバーできる環境作りを行った。今後も各スタッフと色々なアイデアを出し合いながら、お互いが働きやすい環境を整備していきたい。

2019年度は、給食委託会社との契約内容変更も予定しており、部署としても新たなスタートとなる。人員面もだが、働きやすい環境作りを継続して行い、部署内のチームワークはもちろん、しっかり体制を整え、安心・安全な食事提供と患者栄養管理を行っていく。

